

第一回ニューススポーツ研究会の報告- 情報交換会の場として-

著者	加藤 満, 上田 知行, 白川 和希, 須田 力, 小田 史郎
雑誌名	北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター年報
巻	4
ページ	39-48
発行年	2013
URL	http://id.nii.ac.jp/1136/00001089/

第一回 ニューススポーツ研究会の報告
－ 情報交換会の場合として －

A Report in Regard to the First New Sports Information Exchange Conference

加 藤	満	上 田	知 行	白 川	和 希
Mitsuru	KATOH	Tomoyuki	UEDA	Kazuki	SHIRAKAWA
	須 田	力	小 田	史 郎	
	Tsutomu	SUDA	Shiro	ODA	

北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター年報 第4号 2013

Bulletin of the Northern Regions Lifelong Sports Research Center Hokusho University Vol.4

第一回 ニューススポーツ研究会の報告 － 情報交換会の場として －

A Report in Regard to the First New Sports Information Exchange Conference

加藤 満¹⁾ 上田 知行²⁾ 白川 和希¹⁾
須田 力¹⁾ 小田 史郎²⁾

Mitsuru KATOH Tomoyuki UEDA Kazuki SHIRAKAWA
Tsutomu SUDA Shiro ODA

キーワード：ニューススポーツ，北方地域，雪上活動，スポーツ情報交換

I. はじめに

北翔大学・北方圏生涯スポーツ研究センター（以下、Spor と称す）は「人間科学・地域研究」を重点研究領域とする共同研究プロジェクトの機関であり，多方面の研究分野の活動から生涯スポーツ文化の創造・形成に貢献することを目的として設立された¹⁾。

今回，当センターの健康スポーツ研究分野・ゴルフ推進部は北方の各地域と連携できる機会をニューススポーツに求め，これと関連するネットワークを構築し，一般住民の健康・体力づくりに直接的あるいは間接的に加担し，多くの人々が日常の活動量を保持しながら末長く明るい，楽しい生活を過ごせるような方策をみつけることとした。

II. 情報交換会の場とするニューススポーツ研究会

ゴルフ推進部ではゴルフカスポーツを介して日頃一般住民と頻繁に交流を深めている（図1）。これは当センター設立当時寒冷地スポーツ推進研究部員ら^{注1)}によって考案され²⁾，平成19年2月に初めて一般に公開された³⁾。当時，われわれはニューススポーツの開発に先だって「これまで体験したことがない，気軽にできる，積雪地域の特性を活かせる」スポーツをキーワードに国内外の情報を探し求め，また協議を重ねながらゴルフ誕生によりやくたどり着いた。この普及活動については研究員全員があらゆる地域を訪問し，例えば，冬祭りの呼び物として実演し，実技指導の講習会を開き，またこれ

らの状況記録をメディアから有効に伝えてもらった。その結果，「見た」，「聞いた」，「した」という多くの住民たちが気軽にゴルフと接し，また厳冬にも負けず活発に動いた。このように，一般住民がニューススポーツを認識し，自由に活用できるまでには長い時間と準備が必要である。

もう一つの話題として，過去に帯広市と近郊の町の教育委員会が共同で作成した「十勝圏広域スポーツセンターのニューススポーツガイドブック」⁴⁾は一般向けの活動手引き書であるが，残念ながら，この貴重な情報は限られた地域のなかでしか活用されていなかった。

そこで本研究会は，あらゆる年齢層の住民に対して当初の目的である体力や健康の維持・増進の目標に向けて“多くの情報ネットワークをつくろう～ニューススポーツを広め，試そう，元気になろう～”のテーマのもとで参加者が将来ニューススポーツの愛好者あるいは指導者となって積極的に活動することを目的に，「第一回の情報交換の場とするニューススポーツ研究会」を開催することになった。

ニューススポーツ研究会の報告は，以下の内容である。

1. 情報交換の場とする研究会の「Nスポ会」とは

本研究会は，北方の地域住民らがニューススポーツに関する情報を収集し，そして意見を交換しながら活用法を共有し，そして新たなスポーツ開発のきっかけづくりをねらいとし，“北方の：Northern”，“新しいスポーツ：New sports”，“ネットワーク：Network”の意味を含めて「Nスポ会」と略称した（図2）。ニューススポーツ研究会は，以下「Nスポ会」と称す。

1) 北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター

2) 北翔大学生涯スポーツ学部スポーツ教育学科

道新新聞（朝刊）2013年1月31日（木）

道産スポーツで身も心も温かく

ゴルフポッカ

地域の高齢者と一緒にゴルフポッカを楽しむ中学生＝赤平中央中



江別市の北翔で、風や積もった雪のため狙った方向に進まないことも。体力や技術の差がつきにくく老若男女が一緒に楽しめるのが長所だ。クラブはパークゴルフのボール、三角コーン、かばんは既製品を活用する。正式には9ホールだが、場所の広さや時間に合わせて5ホールなどに短縮することもできる。小田教授の指導で赤平中央中の生徒たちが今月24日、地域の高齢者と一緒にゴルフポッカを楽しんだ。「初めてのゴルフポッカで体がポッカポッカになった」という田中慶君（1年）は「最初、思った通りにボールが飛ばなかったが、だんだんうまくできるようになった。冬は外で遊ぶことが少ないので今後もプレーしてみたい」と笑顔だった。ゴルフポッカについての問い合わせは小田教授 ☎011・3887・3668へ。

節電が求められている上に、例年以上の冷え込みが続く今冬の道内。体を積極的に動かして温まりたい。道内各地で誕生し、楽しまれているオリジナルスポーツも一つの手段。競技方法やルールは既存のスポーツを少し変更しただけなので覚えやすく、誰もが手軽にできるのが魅力だ。（塚本博隆）

ルール簡単 手軽に楽しむ

ことに交代する。1セットが21点で、2セット先取すると勝ちだ。「バドミントンのコートとネットなら、ほとんどの体育館に用意されている」（様似町教委の川口達也さん）と場所を選ばない。スポンジボールなのでスピードもそれほど

テニボン

様似町民テニボンの集いで汗を流す出場者＝2012年11月



新得町で開かれたフロアカーリング大会＝11年3月

フロアカーリング



「バドミントンのコートとネットなら、ほとんどの体育館に用意されている」（様似町教委の川口達也さん）と場所を選ばない。スポンジボールなのでスピードもそれほど

と出ないため「初心者でも簡単。練習なしですぐにゲームに入ることができる」のもメリットだ。専用ラケット（3150円）の入手方法などテニボンについての問い合わせは様似町スポーツセンター ☎0146・36・3708へ。

新得町教委の大橋祐貴さんは「ルールはカーリングと同じで覚えやすい。フロアカーは普通に投げて、意外に真つすぐに進まないのも競技のおもしろさです」と説明する。フロアカーなどの道具（一式で9万4千円）の入手方法など問い合わせは新得町教委 ☎0156・64・0532へ。

「フロアカーリング」はその名の通り、室内でできるカーリングとして十勝管内新得町で93年に生まれた。ストーンの代わりにキヤスター付きの「フロアカー」を投げ入れて点数を競う。コートはバドミントンコートの半分を使用する。

図1 平成25年1月13日付北海道新聞（朝刊）：中学生のゴルフポッカを楽しむ記事

第1回 北方ニュースポーツネットワーク



“通称：N スポ会” （情報交換会）

テーマ

ニュースポーツを広めよう！

～多くの情報ネットワークをつくろう～

開催日 平成24年3月2日（金）

会場 北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター内
多目的ホール（1F）・多目的グラウンド（屋外）

図2 第一回Nスポ会のポスター（白川和希研究員 作製）

2. 参加者および所属について

人数は総勢28名（男23名，女5名）が参加した。所属は津別町，紋別市，雄武町，大空町，興部町，滝上町の各市町の教育委員会，またNPO法人の北海道スポーツコンシェルジュ，札幌市役所市民部宮の森まちづくりセンター，北方圏体育スポーツ研究会，Sスポーツクラブ，北方圏生涯スポーツ研究センター，北翔大学（生涯スポーツ学部の学生）であった。

3. 開催日時・場所，プログラムの内容

実技および口頭発表会は平成24年3月2日（金）午前の部と午後の部に分けて実施した。実技編ではニューススポーツのデモンストレーションを北翔大学構内の屋外会場のサッカーグラウンドおよび一部を貸し切った駐車場，また屋内会場ではSporの多目的ホール1階を使用し（写真1，写真2），口頭発表はSporの大会議室6階でおこなった。表1，表2には当日の午前と午後のプログラムの内容を示した。

表1 【午前の部】大学構内の屋外施設

-09:00	受付	-Spor 多目的ホール前
-10:00	開会式（Nスポ会 実行委員長 小田 史郎）	-Spor 多目的ホール1階
-10:30	実践発表①「ブルームボール」（資料1）	-屋外駐車場：
～10:45	雄武町教育委員会 佐藤 公輔／川村 貴紀	赤色のパイロンでの空間
-11:00	実践発表②「ゴルフディック」（表3）	-屋外駐車場隣
～12:00	健康スポーツ研究分野 研究員 白川 和希／加藤 満	
12:00	実践発表③「ゴルフボッカ」（表3）	-多目的グラウンド
～13:15	健康スポーツ研究分野 研究員 上田 知行／白川 和希	（サッカー場）

※ 当日，実践発表の時間が延びた種目もあった。

表2 【午後の部】屋内施設（北方圏生涯スポーツ研究センター）

-13:15 ～14:15	実践発表④「ストロングファイター」（資料2） 紋別市教育委員会 大和 博之 興部町教育委員会 山本 悠貴 滝上町教育委員会 水上 良一	-Spor 多目的ホール3階
-14:20 ～15:10	実践発表⑤「ゴルフクル」（表3）（写真3） トータルサポート研究分野 研究員 小田 史郎 健康スポーツ研究分野 研究員 白川 和希	-Spor 多目的ホール1階
15:20 ～15:35	【座長】健康スポーツ研究分野 研究員 上田 知行 口頭発表①「新スポーツ・ゴルフボッカによる地域住民の活動効果および実践指導における問題点について-現場からの報告-」 津別町教育委員会 石川 波江	-Spor 会議室6階
15:40 ～15:55	口頭発表②「高齢者向けに新スポーツ・ゴルフボッカを実践し，その成果について」 札幌市中央区市民部宮の森まちづくりセンター 加藤 修	
16:00 ～16:40	◇第一回Nスポ会開催記念講演（司会 上田 知行） 「ニューススポーツの役割」 北方圏体育スポーツ研究会 会長（北星学園大学 教授） 武田 秀勝	
16:40	閉会式 （研究会実行委員より） ・実行委員からの挨拶，今後のNスポ会の活動について ・参加者全員に研究会の要望および感想について質問紙調査	



写真1 Nスポ会の開催、実行委員長の小田史郎研究員の挨拶



写真2 雄武町教育委員会の佐藤公輔氏による「ブルームボール」の実技指導風景（北翔大学南駐車場の一部を使用して）



写真3 考案者小田史郎研究員による「ゴルフクール」の実技指導風景

表3 3つのニューススポーツ種目の特徴

	ゴルボッカ	ゴルクル (写真3)	ゴルディック
時期, 場所, 用具	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬季 ・ 雪原 (どこでも) ・ パークゴルフ用クラブの使用可 ・ カンジキ, スノーシュー ・ 柔らかいソフトボール型色付きボール 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏には屋外で, 屋内では年中できる。 ・ パークゴルフ用クラブ ・ ゴルボッカで使用する柔らかい色付きボール ・ 打つボールを簡易プール (水を入れたり, 水なしでも可), また代用として道具収納箱に入れたり, コーンに当てたりする。 ・ 床上のティーペグにボールを置いて打つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬季 ・ 雪上歩くスキーコース ・ ゴルフクラブ (古いアイアンクラブ) ・ 硬式テニスボール ・ カンジキか, 歩くスキー板とストック
内容, プレー人数など	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレー人数は制限なし ・ 1 グループ: 2 ~ 4 名 ・ 競技形式 通常のゴルフ・スポーツと同じく的となるパイロン (コーン) に当てた打数を記録。 ※ 的は立木や電柱も可である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴルボッカの夏版としてアレンジし, ゴルフの要領でボールを打ち, いくつかの簡易プールに入れた得点を競うスポーツ ・ 競技形式 打つことのできる数はプールの数より若干多めに設定する。プールに入ったら, 1 得点。もし水が入っていて打ったボールがプール外に出れば得点されない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレー人数は 1 チーム 3 名とする。 ・ 9 ホール (全長1,120m) ・ 競技形式 チームの申告所要時間と打数を得点に換算する。できるだけ申告時間に近いチームの得点が高い。 ※ 得点の算出は大会事務局の紋別市教育委員会の方式による。
運動の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレー中コース上でハズニングが生じるので, 必ずしもゴルフテクニックが優先するとは限らない。 ・ 踏み固められていない雪原を歩いて 9 ~ 10ホールを進むので, 最初は寒いけれど直ぐにからだがポッカポッカ暖かくなる (ゴルフ+ポッカポッカ: ゴルボッカ)。 ・ 深雪で実施する場合, 高齢者にはかなりからだの負担が大きい。注意! 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しむ年齢は, 小さな子どもから高齢者まで幅広い。家族で遊べる。 ・ 簡単なルールで, 得点にこだわり, 夢中になってしまう。 ・ 楽しむ場所を考えてプレーをいろいろアレンジできるので, 面白いスポーツ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴルフの初心者でも9ホールを廻ってくる申告タイムが正確に近い数値であれば, 上位をねらえる。 ・ 楽しむ年齢層が子どもから高齢者まで。 ・ スコアを気にしながら, 歩くスキーも同時に楽しめる。 ・ チームワークが求められる。
よい点, 課題など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬場の屋外なので吹雪や強い降雪などでは難しく, 天候に左右される。 ・ 使用するボール (ノーパンクボール) ・ 夏のパークゴルフ用クラブが使用可 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 準備が簡単であり, 自宅の庭で遊べる。 ・ ボールが, あまり遠くまで飛び過ぎないように注意する。 ・ 幼い子どもの場合, できるだけ打ちやすいように, またボールを的に入れやすいようにアレンジできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 競技のための歩くスキーコースとして設営するので, 普段個人だけでは実施できない。 ・ 必ず雪上で実施するので, 雪が積もっている場所を確保する。

資料1 雄武町教育委員会：Broom Ball（ブルームボール）

ふるさと雄武じまん

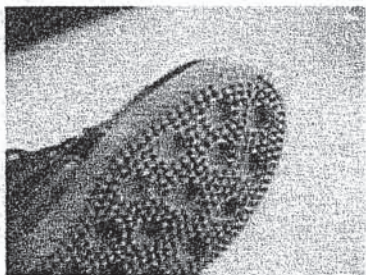
ブルームボールの日本の競技人口は現在約 500 人。そのうち約 400 名がオホーツク管内に集中。

雄武町にはプレイヤー約 100 名が協会に加入し、国内最大規模を誇るとともに最強チームと評される。

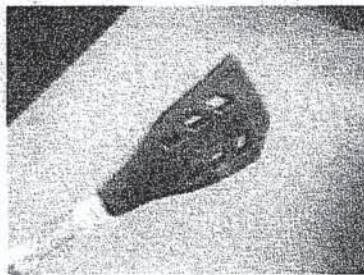
世界から関係者 700 名を受け入れる世界大会苫小牧では、雄武町もまた準ホスト国として大会の成功を担う。

ブルームボールって？

- 専用スニーカーでリンクを走る。
- ブルームと呼ばれる専用のスティックを使う。
- 直径 15cm のゴムボールを使う。
- 男女混成のミックスというカテゴリーがある。
- 試合時間は 15 分×2 ピリオド（ハーフタイム 5 分）が基本。
- 身に付けるのはヘルメット、エルボーガード（肘）、ニーシングガード（膝・脛）のみ。



氷の上で滑らずに走ることが
できる専用スニーカーの
ブルームシューズ



ブルームとは箒（ほうき）
のこと
これで 15cm のゴムボールを打つ



2014 年世界大会開催の
報告のため苫小牧市長を
表敬訪問する久保会長

資料2 紋別市，興部町，滝上町の教育委員会：Strong Fighter（ストロング ファイター）

ストロングファイター

1. 目的

近年、子どもの運動能力は著しく低下してきていることから、ゲーム感覚で楽しく気軽に取り組みやすいニューススポーツ「ストロングファイター」を通して体力向上を図りたい。

2. 対象者：小学校高学年

3. ルール

- ①バスケットボールコートを使用
- ②1チーム13人制
- ③両チームの持ち球は30球
- ④ディスゲッターを使用
- ⑤1セット3分、3セットマッチで2セット先取したチームの勝ち
- ⑥勝敗の判定（得点制）
 - ・ 時間内に相手チーム全員を倒すと100点（12人＝100点）
 - ・ コート内の倒した選手一人3点（11人×3点＝33点）
 - ・ ディスゲッターの倒した数字を全て足す（9枚＝45点）
 - ・ 全ての得点を合計して得点の多いチームの勝ち
 - ・ 同点の場合はジャンケンで決する
- ⑦サイドキーパーの役割
 - ・ 各チームより選抜された一人がエリア内に入っている
 - ・ 何回ボールが当たってもノーカウント
 - ・ 持ち玉は20球、投げ終わったらおしまい
 - ・ サイドキーパーエリアから離れることはできない
- ⑧コート内に転がっている全てのボールを使用できる
- ⑨アウトラインからの投球は認めない
- ⑩ボールのパスについて
 - ・ 味方チーム員に、ボールを投げてパスできない（転がす・手渡し・バウンドパスは認める）
- ⑪相手のボールをキャッチしても当たりとする
- ⑫アウトになった選手は、コート外に出る

4. アウト判定：自己申告制

5. 審判：主審1名、副審1名、タイムキーパー1名

6. 道具

- ①卓球用フェンス25枚②コートボール2種類（各30球）③サイドキーパーボール2種類（各20球）④ヘルメット26個⑤ビブス2種類（各13枚）⑥ディスゲッター2個⑦ストップウォッチ1個⑧ラインテープ⑨布ガムテープ3巻⑩50mメジャー1個

Ⅲ. 現場からのニュースポーツ実践指導報告および記念講演

つぎの内容については、著者らが研究会開始から終了までをVTRカメラで収録したものから記述した。

1. 「ニュースポーツ・ゴルポッカによる地域住民の活動効果および実践指導における問題点について-現場からの報告-」(発表者:津別町教育委員会社会教育課社会主事 石川 波江)

町内の小学生を対象に実施したゴルポッカは、最初冬祭りのイベントの種目であったが、3年継続して冬季間いつでも気軽に、児童から高齢者まで広い年齢層で楽しめるようになった。今後は住民の固定したスポーツ(生涯のスポーツ)として展開することを考えたい。冬のかなり厳しい気象条件下高齢者の指導の場合健康上十分な配慮が必要であり、事故の無いように進めていきたい。特に、サポートのためのスタッフ確保が大事である。

2. 「高齢者向けにニュースポーツ・ゴルポッカを実践し、その成果について」(発表者:札幌市中央区市民部宮の森まちづくりセンター 所長 加藤 修)

われわれは4年間毎年2回実施している(天候の悪化で直前に中止になった年もあった)。最初の年は参加者が10名程度と少なかったが、翌年早い時期から町内会に回覧で広報したところ、徐々に増えた。プレー後の感想では冬の戸外で「こんなに楽しく遊べるとは思わなかった」などと述べていた。これまでの参加者は女性が大半を占めていたが、平成23年シーズンでは事前に「宮の森ゴルポッカ大会」を回覧で案内すると、50歳代から80歳代まで幅広い年齢の参加者がさらに増え、特に男性が大勢加わった。宮の森地区住民がニュースポーツを簡単に受け入れたのは自由に活動できる自然環境が整っており、ごく当たり前に運動する習慣が身についているように思える。参加者は冬の寒さでも体力および健康の維持・増進のためにゴルポッカを心から楽しんでいた。

3. 第一回Nスポ会の記念講演

「ニュースポーツの役割」(北方圏体育スポーツ研究会会長 北星学園大学教授 武田秀勝)

生涯を通じておこなうスポーツ活動は心身にきわめて重要であり、新たなスポーツの誕生がより多くの住民たちの活動幅を広げ、特に脳神経系の働きにはよい影響を及ぼす。

Ⅳ. 道東地域の3市町教育委員会によるニュースポーツの課題

1. 滝上町教育委員会

今後自由度の多いニュースポーツを推進するには一方で高齢者向けの生涯を通じて楽しみながら健康の維持・増進を目標に、他方では若い年齢層向けに競技性を高めていくことも考え両面から検討して行きたい。

2. 雄武町教育委員会

発信地(研究会開催地)から離れているわれわれはこのNスポ会ではいろいろな地域の指導者たちと交流し、さまざまな情報を交換できて非常に有意義な時間を過ごした。今回発表したブルームボールは我が地域の小学校の体育実技授業に取り入れられている。われわれは他の地域と連携しながらニュースポーツをシーズン通して実施できるように取り組んでいる。

3. 興部町教育委員会

われわれの地域の小学校では2年前から戸外の雪遊びに“ゴルポッカ”を採用し、児童生徒にたいへん好評である。このスポーツは用具類購入の経済的な問題がほとんど無く、プレー中のルールも難しくないで、広い年齢層の住民にも親しみやすい。今後、教育委員会側の役割は一般住民の多くが参加できる、厳しい冬を健康的に暮せる組織づくりである。われわれは今回のようにニュースポーツ関係の情報を身近で触れる機会が少ないので、Nスポ会に対する期待が大きく、より一層の発展を願っている。

V. Nスポ会に関した参加者からの要望や感想

つぎの内容は、参加者全員に質問紙調査を実施し、それをまとめたものである。

1. Nスポ会は研究会の趣旨に沿った進め方をしており、第一回記念講演の内容も興味深かった。また北翔大学学生の積極的なサポートが目立った。

2. 今回の参加で得たことを管外の教育機関にも伝えたい。

3. いろいろなニュースポーツを経験することができて大変有意義な時間を過ごした。まだまだ多くのニュースポーツがあると思うので、できるだけまめに情報を探し、それを競技大会の立ち上げに結び付けたい。要望はこれから情報交換会の場を定期的に開催し、多方面とのネットワークづくりができるように取り組んでほしい。

4. ブルームボールは楽しかったが、骨折などの怪我の危険性がやや高いと感じた。道具の修正が必要と思う。

5. ゴルディック, ゴルポッカ, ゴルクールなどは楽しかった。
6. ストロングファイターについて, プレー中ボールが心臓に当たった場合危険な状況になる心配がある。感想としてはボールがからだに当たったことを申告する厳しいルールの方がよい。
7. ニューススポーツの発展性や広がりやを再認識することができた。道内の市町村では生涯スポーツを考えるなかでニューススポーツは重要な役割を持っている。運動をしない子やその親には運動の場に引っ張り出して「スポーツは楽しかった」と思わせて興味を持たせること, それを習慣づけることが必要だ。そのためのニューススポーツは有用なツールだと思う。
8. Nスポ会には様々な活動をしている方々が参加しているが, ニューススポーツを通じて交流できたことはネットワークをつくる上で良い機会だったと思う。今後はたくさんの住民も参加できるように発展を願っている。反面, 今回のような小規模の会の雰囲気良く, 参加者同士と積極的にコミュニケーションが取れたので楽しかった。また参加したい。
9. 今回ブルームボールの説明では短い時間だったので, 次回は規定の人数で本格的なゲーム形式で実施したい。そうすると初めてスポーツに触れる人でも理解できる。

VI. まとめと今後の課題

今回のNスポ会にはオホーツク教育局, 札幌市役所, 北方圏体育スポーツ研究会の参加者総勢28名が北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センターに集合した。発表形式では実技も交えた発表内容なので, 発表者側と聞く側との間で意見の交換がよくできたし, 時間の流れや配分もスムーズであった。通常の研究形式ではポスターか, 口頭で発表するが, 今回はニューススポーツの実技が中心なので, 限られた時間帯内で触れ, 試し, 確認することがねらいであった。しかし, Nスポ会の趣旨を考えると, 今後の開催ではできるだけ多くの情報や参加者のなかで意見の交換をすることが, もし, 時間的な問題が解決できれば, ネットワークづくりに有効と考え, そのうえで北方の多くの人々がニューススポーツで身体運動を活発にできるように押し進めたい。

脚 注

注1) 北翔大学・北方圏生涯スポーツ研究センターは文部科学省の私立大学学術研究高度化事業, 「学術フロンティア推進事業」の選定を受け, 平成16年4月より5ヶ年計画プロジェクト「北方圏における生涯スポーツ社会の構築に関する総合的研究」が進められた。その一研究分野である。

謝 辞

ニューススポーツ研究会は北海道内の教育委員会をはじめ, 札幌市市民部, 一般市民, 北翔大学学生の皆様のご協力とご理解を頂きまして第一回目の研究会を開催することができました。また, 会の進行にご助言などいただきました健康スポーツ研究部・自然体験活動グループの青木康太朗先生に, 深く感謝を申し上げます。

付 記

本研究は, 平成23年度から平成25年度文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の助成を受けて実施したものである。

文 献

- 1) 北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター編: 生涯スポーツ叢書Ⅰ 北方圏における生涯スポーツ社会の構築. 響文社, 札幌, 2010.
- 2) 白川和希: 新スポーツ「ゴルポッカ」の開発. 北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター編 生涯スポーツ叢書Ⅰ 北方圏における生涯スポーツ社会の構築. 106-110, 響文社, 札幌, 2010.
- 3) 小田史郎: ゴルポッカの普及活動. 北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター編 生涯スポーツ叢書Ⅰ 北方圏における生涯スポーツ社会の構築. 119-124, 響文社, 札幌, 2010.
- 4) 十勝圏広域スポーツセンター機能整備協会編: 十勝のニューススポーツガイドブック. 帯広市スポーツ課, 帯広, 2004.